

## 会 議 録

|                    |  |   |    |
|--------------------|--|---|----|
| 会 議 名<br>(付属機関等名)  | 第4回川西市立学校のあり方審議会   |   |    |
| 事務局(担当課)           | 教育政策課  |   |    |
| 開 催 日 時            | 令和6年7月17日(水) 午前10時00分  |   |    |
| 開 催 場 所            | 川西市役所 4階 庁議室   |   |    |
| 出<br>席<br>者        | 委 員  | 川上 泰彦 委員、柳田 竜一 委員、伊丹 康二 委員<br>下村 亜矢子 委員、平瀬 史明 委員、杉村 浩 委員  |    |
|                    | そ の 他  |   |    |
|                    | 事 務 局  | 石田教育長、中西教育推進部長、下内教育推進部理事、岩脇教育推進部副部長、上西教育推進部副部長(教育保育職員・入園所相談担当)、西山教育推進部副部長(教育保育・インクルーシブ推進担当)、松下施設マネジメント課長、富本教育政策課長 他課員3名 |    |
| 傍聴の可否              | 可  | 傍 聴 者 数   | 7人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 |  |   |    |
| 会 議 次 第            | 1.開会<br>2.議事<br>(1)子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境について<br>3.閉会 |   |    |
| 会 議 結 果            | 別紙審議経過のとおり   |   |    |

事務局

## 1 開会

お時間がまいりましたので、令和6年度第4回川西市立学校のあり方審議会を開会いたします。

皆さまにおかれましては、本日はご多忙中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私は本日の進行を務めます、川西市教育委員会教育推進部教育政策課の廣末でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会議開催に先立ちまして、事務局からの連絡事項をお伝えいたします。ご発言の際、お手元のマイクを通してご発言いただけますようお願いいたします。会議録を作成するために、ICレコーダーを使用しておりますが、マイクを通した音声のみしか録音できない仕組みとなっております。ご発言の際は、お手元のマイクのボタンを押していただき、マイクが緑色になっているのを確認の上、できる限りマイクを手元に寄せていただいてからご発言いただけますようお願いいたします。

本日の委員の皆さまの出欠につきましては、山本委員が都合によりご欠席となります。

事務局の出席者につきましては、教育長石田、教育推進部長中西、教育推進部理事下内、ほか9名でございます。

また、本会は清和台南小学校の校長先生にオンラインにてご参加いただいております。

本審議会は、川西市立学校のあり方審議会会議公開運用要綱等に基づきまして公開することとしており、傍聴できることとなっております。本日は傍聴者が来られています。会議録作成のため、本審議会の様子を録画、録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。会議録については、各委員のお名前を伏せた形で発言要旨を事務局でまとめ、会長にご確認、ご承認いただき公開となります。よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行は会長にお願いしたいと思います。川上会長、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 議事

(1) 子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境について

会長 皆さん、おはようございます。次第に従いまして議事のほうを進めてまいりたいと思います。

まず初めに、前回、第3回の時にご質問がございました、川西市の施設の老朽化に関して事務局からご説明をお願いできればと考えております。その後、予定している議題としては、学校と地域の関係の議論になると思います。どうぞよろしく願いいたします。

では、施設老朽化の件につきまして、事務局からご説明をいただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局 改めまして、皆さん、おはようございます。本日もどうぞよろしく願いいたします。

それでは、第4回の審議会のご説明に入らせていただきます。

まずは前回、冒頭にありましたように、ご依頼のありました、学校施設の関係の資料となります。担当所管課からご説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

事務局 第4回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【学校施設の老朽化について】

会長 ご説明ありがとうございました。  
いかがでしょうか。

委員 前回、建物についての説明をお願いしますという話をしたのですが、今日、資料を伺っていると、清和台など機能面が現状維持となっておりますが、児童数などをどの程度考えられたのか教えていただけますか。将来的な児童数はこうなるけれども、機能としては現状維持だということなのか、建物として使えるかどうかということ現状維持なのか、現状維持という言葉の意味を教えていただけたらと思います。

事務局 先ほどの表の中で、ソフトの欄とハードの欄があります。ソフトは確かに生徒数、児童数は減っていくなど、そういう現状はあるのですが、この当時では、向こう3年間については現状維持をしていくべきだと考えております。

一方で建物については、久代小学校でいえば部分的な改修を行って、施設として維持をしていこうという考えでお示ししております。

委員

ありがとうございます。分かりました。

今後、教育面から考えた時に、変更になるかもしれないということ、要は3年間は現状維持だろうということだと思います。

46年という年数がたっているとはいえ、建物は維持しようと思えば、お金をかければ何とでもなるといえば何とでもなります。ただ、改修というのは、大体築年数がたてばたつほどマイナスの部分でゼロに戻す、そういう改修がどうしても多くなっていくので、劣化しているから元通り、元通りといっても少しやり直そう、雨漏りしているから直そうなど、プラスに大きく跳ね上がるような改修というのは、なかなか難しいと思います。

ですので、大規模改修をされる時には、機能をマイナスになっているものを、ゼロより少し上にするというよりも、これからどういう機能が本当に必要なのかということを広い視野で考えていくということは大事だと思いますので、川西養護学校も大規模改修を検討されるということであれば、ハード的に改修するというだけではなくて、機能的な面からも検討いただけたらと思っています。

ほかの市で私が関わらせていただいていたようなところでも、大体当初の改修予定では、これぐらいの予算で、これぐらいのマイナスをゼロプラスアルファぐらいにしようと思っていたけれども、いろいろな人たちの話を聞いていると、もっと楽しいことができるぞ、もっと有意義なことができるぞという議論になりました。予算は少しオーバーするけれども、やはり機能的に大分プラスになって、公共施設の再編にプラスになることがありますので、ぜひ改修というよりも施設の役割などを大きく見直すチャンスだと思って捉えていただければありがたいなと思っています。

会長

ありがとうございます。

すみません、私のほうで分からないことがありまして、確認をさせていただきたいのですが、機能面での現状維持というのは、要は学校教育の用途にはそのまま使い続けますなど、そういう程度の意味で捉えたらいいのですか。ハードとしての部位改修をやるとか、大規模改修をやるというのは、安全・安心に学校教育をやっていく上で何か支障があって、それに対応するというのは分かるのですが、機能面での現状維持というのは、用途変更はしません、という理解でいいのですか。

事務局

現状維持というのは、おっしゃるとおり、今までと同じように継続していくという意味合いで記載しております。

この計画を作った時点では、すぐさま集約化や複合化という学校はなかったと思うのですが、一応検討した中では見直しという項目を作っておりまして、複合化や集約化、用途転用など、そういうものを含めて検討した結果、この3年間については現状維持だという形になっております。

会長

ありがとうございます。

今確認したかったのが、先ほどのご発言の部分で、例えば最近よくあることかというと、学校教育でICTがたくさん入ってくるようになって、机のサイズがどうしても今までよりも少し大きいもののほうが便利だなとなると、大きめの机のサイズに合わせた教室のサイズを変更してみたり、集団のサイズをさまざま検討しながら、学習活動ができるように、廊下の部分を非常に広く取って、クラス単位とは違う活動ができるようなしつらえにしてみたりといったことが、最近のトレンドとしてあると思うのですが、その辺が機能での現状維持から外れる話なのかどうかということです。

教育活動に使うということでは、用途の意味での現状維持ではあるけれど、役割をもう少し充実させていこうという話になった時に、機能面での現状維持という判断自体を変えなければいけない話なのかという点を確認したくて、発言させていただきました。

今の理解でいうと、機能面での現状維持というのは、そのままの中で、新しい教育に合わせたしつらえの変化というのは、できるものだという理解でよろしいですね。

事務局

そのとおりでございます。

会長

ありがとうございます。

管理計画を見せていただいて、結構築古のものが多いなと、自分の年齢を顧みて同世代や先輩が結構いるな、というようなことを見ながら確認していたところでした。

委員のご発言の中でも出てきましたけれども、公共施設の集約化や複合化が、公共施設の問題として、いろいろ出ているところかなと思います。川西市の現状についても、同様の課題意識の下で情報整理されている様子を確認したところでございました。

今のやりとりを含めて何かご発言ありますか。

委員

この総合管理計画というのは、総務省のほうから「作りなさい」と言われているものなので、どちらかというと、これだけの施設があり、これを

そのまま古くなったから建て替えをしていると財政破綻するので、きちんと総合的に見なさいよという計画になると思います。

ですので、そこでは現状維持とは言われていたとしても、管理面から「この建物は大規模改修だな」という判断をされた時に、「はい、では当初の予算2億でこれだけの改修をします」と、マイナスからゼロに戻すだけだと何も変わらないと思います。時代に合わせて、機能はどうあるべきかを考えた時には、頑張っただけで、場合によってはほかの集会所や福祉センターなども、機能的には統合できるのではないかという議論は、この総合管理計画にあまり入って来にくいので、いざハード的に管理面から少し改修をしようといった時には、視野を広くして検討していくことが必要だとは思っています。

会長

ありがとうございます。

今、施設の件、前回からのやや積み残しというか、継続的な部分でお話を確認させていただきました。

学校の在り方の検討というのが、この会議の趣旨でございますので、新しい教育、より先を見据えた教育をしたいとなった時に、どうしても施設インフラの問題というのも避けて通れないものですよね。旧態依然とした教室のままで新しいものだけやりますと言っても、なかなか現場としては難しいところが出てきたりするということを考えますと、施設の老朽化を視野に入れながら、新しい機能をどう乗せていくかであったりというのは、審議会の1回目・2回目あたりに検討させていただきました、今後の教育の在り方の部分としっかり絡めて議論を深めていく必要があるのかなと思っ

ているところでございます。  
それではもう一つ、当初予定しているものとして、学校と地域との関係のお話があったと思います。こちらにつきましても、まず事務局のほうから現状をご説明いただければと思います。

よろしく願いいたします。

事務局

第4回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【学校と地域の関係について】

会長

ありがとうございました。

学校と地域の関わりという話題ですので、市内の現在の学校での状況についても少し話題提供いただければと思いますがいかがでしょうか。

校長会資料説明

【地域の方と交流している場面【校長会意見】】

小学校としては、地域との関係については双方向の交流というよりは、お世話になっている交流であるかなとイメージします。

まず、小学校で最もお世話になっている部分は、安全面への力添え、支援です。16校全て安全協力員によって登下校の見守りをさせていただいております。その登下校の見守りを担っていただいているのは地域の皆さんですが、教育委員会が安全協力員をスタートさせて、学校がコーディネートしている形で今は運営されているのですけれども、もうそれよりも以前から自治会や、コミュニティ協議会が、登校時の見守り活動をスタートさせてくださっていました。そこに安全協力員という名前が後から乗った形になっているとイメージしています。

コミュニティ協議会の中に2つ小学校がある緑台地区や、清和台地区であったりすると、そのコミュニティの皆さんが両方の小学校の安全協力員としてカバーしてくださって、安全見守りをさせていただいています。

それぞれ地域ごとに特色がありますので、そこで「私がやってやろう」という方が出ていただいて、学校がコーディネートしながら活動いただいているイメージです。

それから、職業体験出前授業によって、地域の方にキャリア教育的な職業のお話をさせていただいたりすることもあります。

それから、放課後クラブ活動に教師と共にものづくりのクラブ活動をつくって、一人の先生として招いて一緒に子どもたちと活動をしてもらうこともあります。それから、防災については紹介されていたとおりです。

続いて、放課後の部分、教育課程外に当たるかと思うのですが、やはりそこは地域の皆さんの活動したいというエネルギーがとても大きいです。自治会もそれぞれあると思うのですけれども、夏祭りで子どもたちを楽しくさせてもらえたり、地域を活性化させてもらったり、コミュニティ行事としてたくさん活動いただいているのかなと思っています。

それから、子どもの居場所づくりが十数年前からスタートしています。放課後子ども教室という名で、放課後の子どもたちの居場所をつくってくださっています。中には折り紙教室や英語教室、将棋教室、フラワーアレンジメントなど、それぞれ見守りながら、特技を活かした活動で子どもたちを楽しませているというような関わりがあります。

また、昔からお世話になっていると思うのですが、小学校の生活科、総合的な学習において畑で農作業をさせてもらったり、さつまいもを作らせ

てもらったり、そのような土地を活用した関わりもあります。

さらに、地域の親しみ深い方とのつながりによって、七夕祭りの時には、すぐ電話一本で笹飾りのための笹が各校に届けられるなど、そのような身近な関わりが小学校は多いかなと思っています。

校長会で情報収集したのは以上です。

会長

ありがとうございます。

委員

中学校での地域との交流という部分では、1つはゲストティーチャーとして地域の方をお招きして、職業講話等をしていただくことが中学校の中で複数校行われていると思います。

あと、中学2年生が全ての学校でトライやる・ウィークを実施しておりますので、そのトライやる・ウィークの生徒たちの活動をする事業所として協力いただいたり、また、事業所を子どもたちのニーズに合わせて開拓をしていく。そうしたところでも地域の方と交流しながら進めていっているところがございます。

また、放課後等の取り組みの中での交流といえますと、地域行事にただ参加するだけではなくて、地域行事自体の運営のほうに携わって一緒に関わっていくということが、中学生になると実施するようになっております。

また、実際に運営に回りながら、どのような企画をしていくのがいいのか、ただの参加から参画へ、中学生になりますとどんどんできるようになっていくかなと見ております。

そのほかにも、放課後ですと中学校図書室の開放などに来ていただいてご協力をいただいている学校が複数ございます。

これらにつきましては、学校だけで依頼をするのではなくて、今はもうどの学校にも学校運営協議会が設置されておりますので、その中でどういった支援や協力ができるのか、コーディネートをしていっております。

学校運営協議会の中には、中学校ですと、各コミュニティの代表の方に入っていており、また保護者代表も中学校だけではなく、各小学校区の代表の方にも関わっていただいています。それぞれの地域、また学校の強みなどをお互い確認しながら、それぞれの地域、学校が必要としているところ、課題などを確認し合いながら、その課題を補っていく、支援していくような活動が今多くの学校でできていっているのかと思っております。

本校におきましても、地域のほうで、例えば小学生の夏休みに宿題を見ますという宿題道場を開きたい時に、ボランティアとして中学生に活動を



してもらえないかと、この学校運営協議会を通しまして、生徒に募集をする。また、先ほど北陵小学校の取り組みでも出てきましたけれども、防災訓練に中学生がリーダーとして参画しないかと依頼があった場合に、中学生に募集をかける。中学生にしてみれば、小学生にとっての頼れるお兄さん・お姉さんとしてその活動を支援することができ、子どもたち自身も自分たちが地域で必要とされているのだなということが認識できます。また、地域にとっても中学生の力というのがいろいろな行事など、さまざまなことを回していくのに大きな力として協力できているのかなと感じています。

会長

ありがとうございました。

それぞれの学校現場で見る、学校と地域との関係についても話題提供いただいたところでした。

先ほどに引き続きという感じもするのですが、まちづくりの観点から見た時の学校と地域との関係について、少しお話しいただけますでしょうか。

委員

学校の現在の取り組みの状況など、ご報告いただきありがとうございます。

私の子どもが通っているところでも、毎朝見守りをしてもらっている方がいらっしゃいますので、川西でもそういうことがやはりあるよなと思って聞いていました。

やはり小学校を、これから再編なども視野に入れて考えていくとした時に、もちろん学校は本来子どもの教育の場ということなので、その視点が最優先なのですが、今お話があったように、地域の方とのつながりがあるって成り立っているという視点もあります。先ほどお世話になっているという表現で説明をいただいたのですが、お世話になっている、ありがたい、だけれども、その地域の人たちにとっても、もしかすると生きがいのようなものかもしれません。単に「しょうがないな、地域に協力せなあかんと言われてるからやろうか」と言う人ももちろんいるかもしれませんが、やはり地域の子どものため、人のために何かしようと思っておられる方が少なからずいると思うので、それは学校が変わっていく中で、その気持ちや生きがいということに目を向けることは大事かと思います。

今されている活動をそのまま何か維持しなければならないわけではないのですが、地域の人たちにとって学校が、もしかするとちょっとした生きがいや、子どもたちの元気な顔を毎朝見るのが楽しみだったという高齢者がいるとしたら、「学校は移転したので、もしやりたかったらあちらの遠くの学校の見守りをどうぞ」のようなことにはなるべきではないので、そ

の地域の方たちがどのような意識で学校を見ているのかというのは、丁寧に見ていく必要があるのかなと思っています。

それは教育委員会としてすべきかどうかは分からないのですが、もしかしたら市長部局のほうの福祉的な部局、あるいはスポーツ系など、そのようなところの部局が地域と学校が今どういう関係になっているのかということを中心に整理して、学校が移った時、機能が移転した時にも、それはどう維持できるか、あるいは発展できるかということを考えることが大事です。よって、教育委員会がすべきというわけではないのですが、市長部局と連携しながら、地域との関係をいかに発展的に考えるかという視点が大事かなと思って聞いていました。

会長

ありがとうございました。

こちらの論点は、ほかの委員の皆さん方もご意見をぜひ頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

副会長

学校運営協議会については、本当に新しい形として、今神戸市でも全ての学校には設置ができましたが、次にその活動をどのように進めていくのかということがすごく大きな課題になっています。

元々学校評議員会というものがあって、学校のやっていることを評価してもらおうという形で地域の方に集まってもらったところがあったのを、学校運営協議会になってから、もっと学校の運営に参加してもらおうということでスタートしているのですが、割と目新しいことをどんどんやっていると、なかなか持続可能になっていかない部分があるので、それをいかに学校と地域が今後ずっと関わっていけるのかという観点で、この会は続いていかなければいけないなということが、今神戸でも一番大きな課題になっているのかなと思っています。

先ほど学校現場の声を聞いていると、元々あった活動ということがあるので、かなり持続は可能なかなと思っています。かといって、新しく地域と学校とが何ができるかというのを話していくということも、すごく大事なことだと思っています。

一つだけ質問なのですが、地域学校協働活動推進委員といわれていたのですが、この方というのはどのような方がコーディネートされているのでしょうか。運営協議会のメンバーがやるのでしょうか。教えていただけたらと思っています。

事務局

推進委員につきましては、学校運営協議会から依頼されて行うものであ

ります。

副会長

ありがとうございます。

やはりこういう時には中心になる人というのはすごく大事になってくるので、学校現場がするというよりは、地域の方でそういったことを進んでコーディネートしてくれる方がいるのがいいなと思ったのですが、なかなかそういう方というのは貴重な方だと思うので、どのように選ばれたのかなということでお聞きさせてもらいました。

とにかく、学校運営協議会が、これから本当に学校と地域をどれだけつなげていくのかということが、すごく大きなことだと思っていますので、今後の学校の在り方という点では、この活動は必ず見ていかないといけないことだと感じています。

会長

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

委員

私は保護者としての意見や、あとは自分の活動の中の思いなどをお話しさせていただくのですが、今私は図書ボランティアをしたり、1年少し前には愛護、主に登下校の子どもたちの見守りの活動などもしておりました。特に愛護などは登下校の子どもたちの安全ということで、地域の方にたくさんのご協力をいただきまして、子どもたちの安全が守られたなということをしてすごく感じております。

P T Aとしての愛護なので、それだけでは人が全然足りず、校区が広いので、いろいろなところでいろいろな方々に助けをいただいていた見守っていただきました。時には、登録をしていなくても子どもが通る時間に犬の散歩をしてくれる方がいたり、お花の水をあげて外に出てくれる方がいたり、そのようなところを見ていて、本当にありがたいなと感じておりました。このようなことは、本当に皆さんが協力していただかないとできない活動だと思っておりました。

あと、N P O法人で子育て支援の活動をしているのですが、そちらでも今、地域の人とのつながりをつくるという活動をしています。いろいろな活動の中で、いろいろな方にボランティアに来ていただいているのですが、先ほどもおっしゃったように、ボランティアはありがたいなという思いはもちろんありますが、やっていただいている方も、それが生きがいになっている、楽しい、だからやるのだという声をたくさん頂いております。ですので、そのような思いもつないでいけたらと思っています。

今度、放課後の居場所、夕方の居場所づくりも考えておりました、もうすぐ始まるのですが、多分中学生の子どもたちもたくさんいらっしゃると思うのですが、一緒に食事をしたり、食事の提供をしてくれる方も現れたり、皆さんの温かい心がつながっていくのをごく感じておりました、このような地域の人の温かい心の中で子どもたちが育っていくなということを思っております。

学校のほうでもいろいろ、地域の方を巻き込んだ活動がたくさんあるのですが、どんどん広げていっていただけたら本当にありがたいと感じております。

会長

ありがとうございました。

委員の皆さま方からご意見頂戴することができました。学校を核とする地域づくりという要素と、地域と共にやる学校づくり。学校と地域と両方に矢印があるわけですね。地域に支えられて学校がある部分と、学校が地域を元気づける核となる存在になり得るところと、両方の意味があります。そのようなさまざまな機能を合わせ持っていることは、非常に大事にしていくべきところになるかと思えます。

学校の在り方として考える時にも、この後、これが恐らく逆行していくことはないだろうと思えます。地域と学校が離れた存在であるべきという話が今後出てくるかという、多分ないだろうと思えます。

そういう意味でもこの後、学校の在り方ということを考える時に、地域との関係性、議論というのは、非常に大事にしていく必要があるかと思えます。

とはいえ、審議会の性質上、子どもの学びの場としての学校というところを、一つ核には据えることにはなるのですが、このようなさまざまな機能を持っているなど、機能の面だけではなくて地域に住んでいらっしゃる皆さんにとって、学校がどういう意味を象徴しているかということと合わせて、さまざまな部門と、それからほかならぬ地域の方々との丁寧な議論というものが、恐らく今後必要になっていくだろうと思えます。

先ほど事務局から幾つか説明いただいている中でも、この学校のあり方審議会で議論する内容としては大きく4つ柱が立っております。適正な学級規模・学校規模、それから通学時間・通学距離の観点からの適正配置、それから特色のある教育のこと、学校と地域との関係についてということで柱を立てておりました。

やや駆け足といえれば駆け足かもしれないのですが、一通り議論についてはしてきたかなと思えます。

この後は、まず全体を概観できたところですので、これまでの議論を振り返りつつ、細かい部分を確認していった、今後の在り方についての議論をさらに深めていく段階になろうかと思えます。

これまでの議論の整理を、まず事務局のほうからご提示いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

事務局

第4回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【ここまでの議論のふり返し】

会長

ありがとうございました。

小規模校の現状をもう少し委員の皆さんが共有したいということで、実際に現在小規模校で校長をされている先生にご意見を伺えるよう調整をしていただいております。

事務局のほうからご紹介をお願いいたします。

事務局

本日、オンラインという形でありますけれども、清和台南小学校の校長にご参加をいただいております。清和台南小学校は、6学年中5学年が単学級となっている状況でございます。これまでの議論でもありましたように、小規模校の厳しさということを抱えながらも前回ご紹介をさせていただいた、例えばチーム担任制のようなさまざまな工夫を行いながら学校運営を行っておられる学校となっております。

それでは、よろしく願いいたします。

清和台南小学校  
校長

清和台南小校長スライド説明  
【小規模校（単学級）の課題について】

今日は先ほど事務局からもありましたように、小規模校、特に単学級の多い学校の課題点というところで少しお話をさせていただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず本校の現状について、先ほども事務局からありましたけれども、現在児童数は200名となっております。過去には本校も900名ほど児童がいたという時代もあるのですが、やはり年々子どもたちの数は減っておりまして、現状では200名です。今の学級数につきましては通常学級が7クラス、それから特別支援学級が3クラスの10クラスとなっております。

今後の推移を見ましても、大体1クラス20～30名前後の入学者数が続くであろうという予測があります。今後も入学者数から見ると、1クラスという規模が続くのかなと思っています。ですので、4年生の2クラスの学年が卒業すれば、全ての学年が単クラスになるという現状です。これが令和9年度というところを見ておりますので、令和9年度以降は全ての学年が単クラスということになっていきます。

それから、通級指導教室が昨年度から学校単独で付いております。通級指導教室は通常学級に在籍します、LDやADHDなど発達障害を持っている子どもたちが、自立活動等中心に学習する教室となっております。

それから、教職員数ですが、加配も加えまして合計19名おり、その中の16名が、学級数に応じて配置される教職員定数というものになります。一応教職員定数としては私、校長も入れまして16名おりますけれども、実際に担任をしたり校務を担ったりとなりますと、主幹教諭、教諭、臨時講師の12名が中心になる人材です。

加配は、今年度は3名付けていただいておりますが、やはり加配ですので、来年度どうなるかも分かりません。それから、フルタイムではなく短時間ですので、なかなか校務にまでは関わっていただけないという現状があります。

このことを踏まえまして、小規模校、特に単学級の課題というところで、まず児童にとっての課題として感じているところを話させていただけたらと思います。

単学級ということであると、入学から卒業までの6年間、学級が変わることはありませんので、その中で子どもたちの役割であるなど、価値観というものが固定化されがちになっていくと感じます。

この子はリーダー、この子は勉強がよくできる、この子は足が速い、この子は絵が得意だというような、やはりそれぞれの子どもたちの役割・価値観、子どもたち同士でもそれを認めているというところがあります。もちろん、まく関係性が保たれれば非常に絆も強くなりますし、また子どもたちの能力を生かしながら活動していくことで、より良い学級経営ができるというところの良さはもちろんあるのですが、その反面、やはりどうしても友達同士やクラス間の対抗など少なくなりますので、切磋琢磨(せつさたくま)する機会が少なく、いい意味で、競争心や向上心がなかなか高まっていかないという現状もあります。

もちろん、運動会等でクラスを赤と白に分けて競争したりというところもありますが、やはり子どもたちから最初に出るのは、先ほど言いました価値観が固定化されていますので、あの子がいるから勝てないなという

ころです。

それに対してわれわれも、例えばリレーでありましたら、足の速い子が1人いても勝てないわけですので、チームワークとしてこうしていけばいいのだということも指導しながら、子どもたちの競争心や向上心を高めるような取り組みはもちろんしています。

そのことによって子どもたちがそういった部分で高まるどころも授業を通して感じていますが、どうしてもそのような機会が少なくなるということは、非常に課題としては捉えております。

そしてやはり単クラスですので、クラス替えができないというのは非常に大きな課題だと感じております。今、本校では特に大きないじめなどはなく、不登校の児童も少ないです。クラス全体としては落ち着いておりますし、学校のほうも非常に落ち着いて子どもたちが過ごすことができますが、ただ一度そういったいじめや不登校などの人間関係上の問題が発生した場合は、一つの解決方法であるクラス替えができないというところは非常に厳しいと感じます。

もちろん、単クラスの中で、より良い形でわれわれも子どもたちに寄り添いながら、課題解決を解決するために保護者とも連携を取りながらしていきますが、クラス替えという解決方法が取れないことは厳しいです。保護者の方からも、単クラスという現状は分かっておられますが、課題のある子どもとできたら離れたたいという話も出てきているのは現状であります。

あとは、運動会や音楽会など集団教育活動に制約が生じるというところがあります。どうしても人数が少ないので、運動会の表現であれば、低学年・中学年・高学年と分けて、2学年がひっついて演技をする形を取っています。

また、音楽会もやはり人数が少ないので、どうしても楽器の数が少なくなったり、合唱にしても少し厚みが薄かったりというところに制約が生じてくるなと感じています。

次に、教員にとっての課題になります。やはり単学級ですので担任は1人です。単学級といえども、学年で担任が1人ですので、学年分掌、学年の仕事をして1人でこなさなければいけないという負担は非常に大きいと感じています。

また、もちろん学年に相談できる教員がいまないので、やはり若い先生や、まだ経験年数が少ない先生にとっては、非常にしんどいことだなと感じています。もちろん周りの先生に積極的に相談をしている教員はたくさんいますが、お互い1人で全ての仕事を抱えておりますので、お互い忙しいという遠慮もあって、なかなかゆっくりと相談をする時間が取れていな

いということも非常に感じてはおります。

また、今、多様な考え方を持っている児童や保護者が非常に多いです。担任1人の主観で、そういった子どもたちや保護者の対応をするのは、一度その先生の考え方などが、いくら本人が正しいと思っても、捉える子どもや保護者が、そうではないというふうに考えていけば、その対応を誤ってしまうと学級経営が非常に困難になるというところを感じております。

今1人で全ての仕事や責任を背負わなければいけないというのは、非常に厳しい時代に来ているなと感じています。

また、教員が出張に出たり、休職や年休などで休んだりすると、フォロー体制が取りにくい現状があります。

実際に、うちの学校などは出張などで2～3人出ていってしまうと、管理職も含めてそれぞれの学級に入ってフォローしなければならないということがあります。ですから、そのあたりのフォロー体制は非常に難しいと感じています。また宿泊行事も、基本的には教職員が2泊3日泊まり込みで子どもたちの対応をするわけですが、やはりそこに関わる教員は非常に限られます。できるだけ最小限で関わっていかざるを得ないです。そうしなければ学校のほうの授業や、子どもの対応が手薄になってしまいますので、宿泊行事のほうは、私も含めて管理職ができるだけ少ない体制でフォローしていくというところで、本当に何か大きなことが起こったら心配だなと非常に感じています。

また、教職員1人当たりの校務分掌は大規模校でも小規模校でもある程度決まっておりますので、大規模校であればそれぞれの先生方でいろいろなものを分担できますが、本校の人数は12名しかいませんので、12名で同じだけの分掌を担っていかなければならないです。よって、1人にかかる分掌数は増えますので、その分負担が大きくなってしまいます。事務処理に非常に時間をかけて、先生方にはやっています、その分やはり子どもたちに関わる時間や教材研究の時間が失われている現状もあるのは事実です。

それから、やはり教職員定数が減るので、本校には過去に専科の教員が2名おりましたが、そのうち1名が減になりましたので、専科教員としては1名しかいません。以前は音楽と図工を専科としておりましたが、現在は音楽だけになっておりますので、今まで専科であった図工は担任の先生へ振り分けられ、その分やはり負担になってくると感じております。

先生方にとっても、単学級になっていくということは非常に負荷が大きくなる。その分、責任や仕事量は変わりませんので、それはやはり少ない



先生方で背負っていくというところに非常にしんどさ、課題を抱えているところではあります。

会長

ありがとうございました。

こういう席の場での言い方としていいのか分からないのですが、非常に生々しいというか、実情についての詳細のご説明をいただきましてありがとうございました。

今、ご説明があったところでもありますが、こういう状況がある中で、事務局として何か今、考えていらっしゃるのでしょうか。少しご説明をお願いします。

事務局

校長先生のほうから非常に丁寧に詳しく説明していただきましたので、それが全てかとは思いますが、教育行政の責を担っている立場からしますと、先ほどもありましたように、安定的な学校運営に制約が生じる単学級の学級運営には課題があると考えております。今現在では、学校の工夫によって運用していただいているところですが、それも限界があるというところですね。あと、子どもの学びを深めていくという観点から考えましても、先ほど校長先生のほうからありましたように、学級の中での役割や子どもの価値観が固定されがちだということで、たくさんの子どもの学びを深めていくには、より多くの考え方や意見などに触れ合うことが必要不可欠と考えておりますので、やはり子どもの学びの環境として、より良い環境を整備すべきだと考えております。

会長

ありがとうございました。

では、委員の皆さんから少しお考え等々伺っていければと思いますが、いかがでしょうか。ご意見頂ければと思いますが。

副会長

望ましい規模を下回った、いわゆる単学級になった場合に、逆に少人数を活かした取り組みというの、いいところもすごくあると思います。今、お話の中でもそういった話が出てきましたので、そのようなことも一つの方法としてはいろいろなやり方があるなと感じました。

ただ、小中学生という多感な時期に、たくさんの人と出会うということは、すごく私は大事だと考えていますので、そう考えると、小規模化が進んで単学級になっていくことによって、たくさんの人と出会うことができないリスクが増えてくるというのも必ずあるのではないかなと感じています。

特に国の制度で学級規模が決まっていますし、それによって教員の定数も決まっていますので、そのあたりのところは学校がいろいろな工夫をしても、どうしても変えることができない部分ではないかなと感じています。

会長

ありがとうございます。  
そのほか、いかがでしょうか。

委員

現場の教員としては、子どもたちの人間関係というのが一番気になるところ、重要なこととして考えないといけないところかなと思っています。

良好な関係であれば、少ない人数で良い雰囲気の良い静かな学習環境ができるかなと思うのですが、関係を改善しないといけない時は、やはり教育的な側面でアプローチはできますけれども、クラス替えという物理的な離し方でまずリセットできる点は大きなメリットかなと思います。

校長会の中でも、適正な規模などいろいろアンケートを取ったり、話し合ったりしていく中で、繰り返しになるのですが、クラス替えができる、2クラス、3クラスが望ましいというところは、全校長先生一致した意見です。そうしないといけないわけではないですけれども、そうできるのであれば、クラス替えのできる2クラス・3クラス程度で、クラスの人数が20名～25名ぐらいがいいのではないかなという意見でした。

先ほどの清和台南小学校も1クラスで、6年生などは38人いる教室になっているかと思うのですが、そこはそこで、単学級ではあるけれども人数が多くて、恐らく苦勞する部分も多いのではないかなと想像はできます。

校長会の意見、私の校長としての個人的な考えも含めた発言として聞いてもらえればなと思います。

会長

ありがとうございます。  
いかがでしょう。ご意見をたくさん頂ければと思いますが。

委員

中学校での小規模校といいますと、これはもう3学級以下ということにはなるのですが、これはこれで免許外の指導など、非常に懸念事項も大きいことです。しかし、単学級に関しましては、それ以上にクラス替えができないということもあり、子どもへの影響もかなり大きいことだと感じております。

委員

小規模校の現状ということで、以前は小規模になったとしても、例えば

オンラインで何かできることもあるのでは、というようなことを言っていたと思いますが、もちろんそれはあくまでもプラスアルファの機能であって、小規模になってもオンラインで何でもできますというわけではないので、そういったことを考えると、必然的に子どもの教育環境、それから今後の子どもの人口減などを考えていくと、統廃合を考えていくということが必要になるというのは現実的な話だと思います。

そうなった時に、やはり子どもの教育の場としては統合がいいということになったとしても、先ほどの地域と学校の関係の話にもあったように、地域の方からすると、「いやいや、その残った跡地はどうしますの」というところは必ず出てくると思います。それが数年前、統廃合が頓挫になった理由の一つだと聞いています。跡地という表現自体あまりよくないと思うのですが、丸ごと移転して、後はもう空っぽになってしまうということではなく、もしかすると子どもたちのこういう活動の場としては残したほうがいい可能性や、こちらの小学校のほうが環境的にも広さ的にも適しているということがあると思うので、そのあたりは柔軟に考えたほうがいいかと思います。ですので、跡地活用とは言いたくないのですが、分かりやすく言うと、主な小学校としての機能が移転した後の学校跡地をこれからどうするかについて決めるのは相当時間がかかると思います。

先ほど言っていたように、地域の方が町をどう見ているかは実際的な機能として、何か高齢者の触れ合いの場や祭りの場になっている、災害時の避難所になっている、そういう実務的な機能もあるのですが、見守りなど、いろいろな活動が高齢者にとっての生きがいになっているという心理的な機能もあると思います。そういったことはきちんと丁寧に見ていった上で、それを維持するかどうかだけではなく、じゃあこれから町として、主な学校の機能が移転した後の小学校の跡地の小学校区の町として、どのような方向に町をつくっていったらいいか、それこそ町のビジョンのようなものも必要になってくる可能性があります。

それは、一般的な市街地と違って、ニュータウンというのは本当に住宅地が広がる中に、最小限の公共施設や公園、商業施設というものが人工的に計画されているので、小学校の重みというのはすごく重いと思います。ですので、ニュータウンだからこそ、余計に町としてこれからどういうビジョンを描くかという考え方は、現状把握と共に未来を見るようなことが必要になってくるのではないかと考えています。

先ほども言ったように、それを教育委員会がすることではなく、恐らく町のビジョンとなってくると、市長部局のほうの役割になってくると思いますけれども、そのあたり丁寧に、なるべく長期的なビジョンを持って町

の人と議論をするようなことを早めに進めていただけたらなと思っています。

#### 委員

保護者としての意見というか、実際にあったなと思うことをお話しさせていただきます。クラス替えの話ももちろんですけども、クラスの人数のことにも触れて、両方の話になるのですが、元々3クラスだったクラスが、転校される方がいて2クラスになり、40人クラスになりました。今度は転入生が来て41人のクラスになりました。でも多分、41人という大人数に、もしかしたら教室が対応していないのか、すごく狭い教室で、参観のお母さんたちが中に入れられない状態で、結局廊下の際間から中の状態が全然見えませんでした。また、元々学年自体がおとなしくというか、みんな仲が良く、素直な落ち着いた学年と言われていたのですけれども、参観に行った時はすごくざわついていて、去年までの様子とは全然違うなと感じ取りました。

子どもたちに聞くと、やはりクラスの人数が多くなって、教室も狭くなって、みんな落ち着きがなくなり、子どもたちに言わせると、もうクラス崩壊しているという声がいっぱい聞こえました。そのような状況で、多分先生もすごく大変だったのだらうなと感じました。

授業ももちろんですけども、トラブルも多発していて、登校拒否の子が次から次へと出てきているという話もお母さんたちや子どもたちからもいっぱい聞いておりました。早く1年が終わって、次のクラス替えをしたい、早く新しいクラスになりたいと子どもたちがすごく思っているのをよく聞いておまして、お母さんたちも、そうだなという感想をみんなで話していました。そんな1年が終わり、次の学年ではやはり3クラスに戻りました。人数がとても減って、先生たちもいろいろ考えてのクラス替えをしてくださったのだと思います。この子はくっつけたほうがいい、この子は離れたほうがいいなど、いろいろ悩んで考えてくださったと思うのですが、今現在すごく落ち着いていて、去年がうそのようで、クラス替えでこんなにクラスの雰囲気が違うというのをすごく感じた、この1年でした。

クラス替えがないというのは、このままずっといくということなので、子どもたちも逃げ場がないし、トラブルがうまく解消するのであればまだいいのですが、なかなかそれも難しいと思います。同じメンバーでずっとつながっていくのは、何かがあった時になかなか難しいです。立て直しが利かないというのは、すごく不安を感じます。単クラスというのも、人間関係がうまくいっている時には、子どもも不安なく次の学年に上げられるという面ではいいと思うのですが、本当に子どもたちが6年間、もし一緒だ

ったら、途中で何があるか分かりませんので、本当にそういう立て直しが利かない、クラス替えがないという単学級はすごく不安を感じます。

会長

ありがとうございました。

今一通り委員の皆さま方にご意見を頂いたところではあります。さまざまな、規模感の話もそうですし、最後頂いたお話などはクラス替えのできる、できないであったり、クラス替えが果たし得る効果の部分でのお話であったかなと思います。

副会長

単学級が発生した場合には、性急にすぐに統廃合という結論を出すのは、やはり危険だと思うのですが、逆に時間がかかればかかるほど、そこにいる今現在の子どもたちにとっては、リスクの中での教育になっていくので、時間はかけなければいけないけれども、時間をかけ過ぎるというのも、子どもたちにとってのマイナス面というのは大きいなと感じています。

こうした川西市がやっている、この会議などもその一つだと思うのですが、やはりここでいろいろなことを決めていく中で、地域の方と先を見越した考え方というか、人口の推移というのも割とはっきりしたものが出来ていると思うので、それを加味しながら地域の方ともいろいろと協働していくということは、すごく大切だなと感じました。

会長

ありがとうございます。

これまで出していただいたご意見等々を伺っていて、子どもの教育の部分だけ考えてもさまざまな様相があると思いました。子どもたちがどうか、その保護者さんたちはどうか、学校を支える地域の方々との関係はどうかという話です。クラスに入っていける先生方はどうかというような要素がある中で、そこに学年のサイズ感や学級のサイズ感であったり、何かがあった時に形を変えること、先ほどのクラス替えの話などは非常に分かりやすいところかなと思います。そういういろいろな要素のある中で、教育のうまくいく部分、なかなかしんどい部分というのが出てくるのかなと思いました。

これまでの議論の中でも少し申し上げたところではあるのですが、単学級が持ちうるリスクの話が出てまいりました。気を付けなければいけないのが、一定の規模や適切とされる規模さえ維持していれば何の工夫も要らないかということ、そういう話ではないということです。リスクが低くなるという話でしかなく、現場に当たる人が何の工夫もなくやって、何の問題もなくいくかということ、そういう話ではありません。望ましいなど、これ

がいいなという規模感を外れた時に、そういうリスクに対応せざるを得ない部分である要素が、大きくなっていく構造であるということの理解は、非常に大事になってくるかなと思います。

ですので、適切、望ましいとされる規模感を外れている学校が、直ちに望ましくない、不適切な教育環境かということ、そうならない工夫というのはたくさんされていて、そのリスクに対する工夫のエネルギーを別のところに向けられるようにというような必要性を、この後議論していく必要があるのだらうと思います。よりよい環境を目指して検討するという時に、大事な観点としてはそういうところになるかなと思います。

そういうたくさんの要素がある中での規模感の話をしていく時に、一つとしては、時々ワードとして出てまいりました。統合や再編をするという考え方が一つあるということになりますが、第2回の途中で、望ましい規模を下回った時の対応方法としてのやり方について、幾つか検討したほうがいいのではないかというご意見頂いておりました。この辺について、事務局のほうでも少し整理をしていただいておりますので、説明をお願いしてもよろしいでしょうか。

事務局

第4回川西市立学校のあり方審議会スライド説明

【望ましい学校規模を確保するための具体的な方策について】

会長

ありがとうございました。

今、事務局のほうから学校規模確保のための具体的方策を幾つか挙げていただきながら説明をいただいたところでした。これに関連して、委員の皆さまからご意見ありましたら、お示しいただきたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

委員

学区の変更などについてどう考えますかという議論の内容だったと思うのですが、今、清和台や清和台南の付近の地図を見ていると、明らかに川西市というのはニュータウンとして開発されている住宅地が幾つもあるわけで、やはりそこはまとまりがあるわけですね。

それは住んでいる方も恐らく、私はけやき坂に住んでいる、清和台に住んでいるという、その地域への愛着や帰属意識というものは子どもながらに持っているはずなので、単学級が発生するから少し校区を広げますねと言って、けやき坂に住んでいるけれども、清和台に通うことになったというのは、子どもの発達というか、地域への愛着という点ではあまり好ましくないと思っています。

それはエビデンスがあるわけではないのですが、私自身ニュータウンで育った関係で、藤白台というところで育ち、藤白台小学校に行っていたのですが、藤白台の開発が広がっていった時に、一部青山台のほうに通っている子どもがいるなど聞くにつれて、町の構造として、自分の町が好きになる、子どもの頃、ずっとあの町で育ったという意識を育むということからいうと、あまりこまごまと校区を変更するというのは、ニュータウン地域ではあまりよくないのではないかなという感覚を、すごくあいまいなのですが持っています。

その子どもの気持ちというものもあるのですが、あと先ほどの学校運営協議会は小学校ごとですけれども、コミュニティー協議会など、そのほかのいろいろな団体、自治会を代表とする地域の団体の区域があるはずなので、それをまたぐような校区変更をすると、結構問題になると思います。

子ども会としては、この自治会の子ども会に入っているけれども、学校としてはこちらになるなどが起こります。ですので、仲いい子どもと一緒に子ども会は活動できないという変な分断が起きかねないので、実態がどうなっているか、私は存じ上げないのですが、校区変更をもし検討されるとすると、地域団体の現状がどういう範囲になっているかなど、先ほど言った、子どもの町への愛着のようなことも検討した上で相当慎重にしないといけないのではないかなと思っています。

会長

ありがとうございます。

生活実態との対応関係のようところが非常に大事なのかなというご意見頂いたかなと思いますが、そのほか、この具体的な方策に関連して、ご意見ございましたらご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

副会長

小規模化を根本的に解消する手段ではないのですが、先ほど出てきました学校選択制の中の小規模特認校というのが神戸のほうにもございます。代表的なものとしては、六甲山小学校と藍那小学校と2つありまして、六甲山はまさに六甲山の上にある学校です。藍那小学校というのは、同じ北区なのですが、鈴蘭台というところの市街地から少し入ったところにある、本当に里山的な部分です。そういった学校には基本的には小学校なのですが、1時間以内に自力で行くことができるという小規模特認校です。

ここは定員が1学年10名、8名というのを決めていて、本当に少人数でそういった自然の中で勉強していこうということを、子どもたちや保護者のニーズが合致した子が来るとい学校です。

それから、前回出てきました学びの多様化学校というのは、本当に不登

校の子どもたちが何とか学校に行って学ぶことができるという学校です。ですので、今後こういった学校規模ということを考える中で、全体としてそういった子どもたちや保護者のニーズに応えるような学校があれば、それも同時に考えていかなければならない一つではないかなと感じています。

会長

ありがとうございます。

小規模特認校については、確かに規模感でいうと、どうしても限定的な運用になるというところはあるかなと思いますし、今、事務局からの説明の中でもありましたとおり、学びの多様化学校のような形での選択肢の確保というのは、望ましい学校規模の議論とは別口の話として確保していく議論になろうかなと思いました。

市としての学校の規模感についての課題意識の部分というところが、今回整理していただけたところかなと思います。また、もう一つは今日、前半の議論と重ねての部分でもありますが、さまざまな手段を含め納得感のある形が取れるような協議・検討というものを、丁寧に進める必要があるだろうというあたりは、会議の中でも共有ができたのではないかなと思っています。ありがとうございます。ありがとうございました。

お約束していた時間がだんだん迫りつつある状況ではあるのですが、もう一点、適正配置についてということで、事務局からも資料を準備いただいているところです。どこまでこの話、お約束いただいている時間の中で詰められるかというのがまだ少し読めないところではあるのですが、ひとまず事務局から適正配置についての議論の整理を説明いただければと思います。よろしくお願いします。

事務局

第4回川西市立学校のあり方審議会スライド説明

【適正配置について】

会長

ありがとうございました。

適正配置についての議論の振り返りを今まとめていただいたところですが、これに関連してご質問・ご発言等ありましたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

おおむね4キロ以内、おおむね6キロ以内となっているのですが、自転車通学が、中学校など認められるようになるのですよね。すごく坂が多い川西市なので、お母さんたちは事故が増えるのではないかとということをしごく懸念しておりまして、そういった面でもいろいろご検討していただき、



皆さんが安心できるような、子どもたちが安心・安全で通学できるような形には持って行っていただきたいというのが保護者としての意見です。

事務局

今、委員から自転車通学のお話が出ました。ご指摘のとおり、試行実施という形ではございますけれども、今年度の2学期から東谷中学校、それから清和台中学校で試行的に実施してまいります。ご指摘のありました、安全面での推進につきましては、ソフト面・ハード面、両方からのアプローチが必要かなと思っております。

自転車が通るに当たって、ハード的には道路の改修などを含めまして、土木部などと連携をしながらより良い形にしてまいります。それから、ソフト面につきましては、各学校において、警察にもご協力をいただきまして、必要な安全教育というのは自転車の部分も含めて推進していかなければならないという思いでございます。

会長

ありがとうございます。

この後、まだまだ検討の続く施策かと思いますが、現状での取り組み姿勢等々お話しいただきありがとうございました。

これまでも議論が出ておりますとおり、適正配置、規模を優先してすぐくまばらな学校配置にするというのは、通学時間が非常に延びていくことになりまして、身近な距離感というのを大事にするとなると、非常に小規模な学校でもたくさん残していくということになって、一種のトレードオフのような環境になっていきます。

それから、今日、まちづくりの観点の議論が多く出てきたわけですが、地域連携の中で防災の話も出てまいりました。例えば防災拠点として学校を考えるとということが出てきますと、通学距離というのは何かあった時の避難所まで行く道すがらの距離ということとほぼ一緒になるわけですし、生活圏としての実感を伴わないところに学校がありますというのは、子どもにとっての違和感の話だけでなく、何かあった時に慣れないところに避難をするということとセットになっていくことでもありまして、非常に難しいトレードオフの問題をはらんでいるということが整理できようかと思えます。

通学においては、毎日のように一番使うのは子どものことなので、児童・生徒の登下校の距離、安全の確保という観点はもちろん大事なのですが、まちづくりの観点からしても、適正な配置というのは非常に大きな問題になってくるのではないかなと思って議論を聞かせていただいたところでございました。

引き続き活発なご意見を頂ければと思いますが、お約束していた時間のほうも迫ってございますので、第4回での議論としてはここでいったん区切らせていただきまして、進行をこの後、事務局のほうにお戻ししたいと思います。

会議録につきましては、発表要旨を事務局のほうでまとめてもらいまして、私のほうで承認をするという手続きを取らせていただきます。

本日の議事については、以上となります。次回以降ですが、今回で情報共有から一通りの議論に向けることができたと思っており、審議会としての取りまとめを求められているところでもありますので、論点整理に向けて議論を進めていきたいと思っております。

先ほども申し上げたところではございますが、議論を振り返ってみられて、やはりこういうところを少し発言をしておきたいなど、改めてこういう感想を持ったという点等々、次回以降ご発言いただきたいと思っております。

では、事務局にマイクをお返ししたいと思います。

ありがとうございました。

事務局

皆さま、長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

最後に、事務局からの連絡事項をお伝えいたします。次回の審議会につきましては、8月16日の金曜日の予定でございます。改めてご案内いたしますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

[ 閉会 午前11時55分 ]